

あやせの図書館を考える会

1 概要

(1) 設置

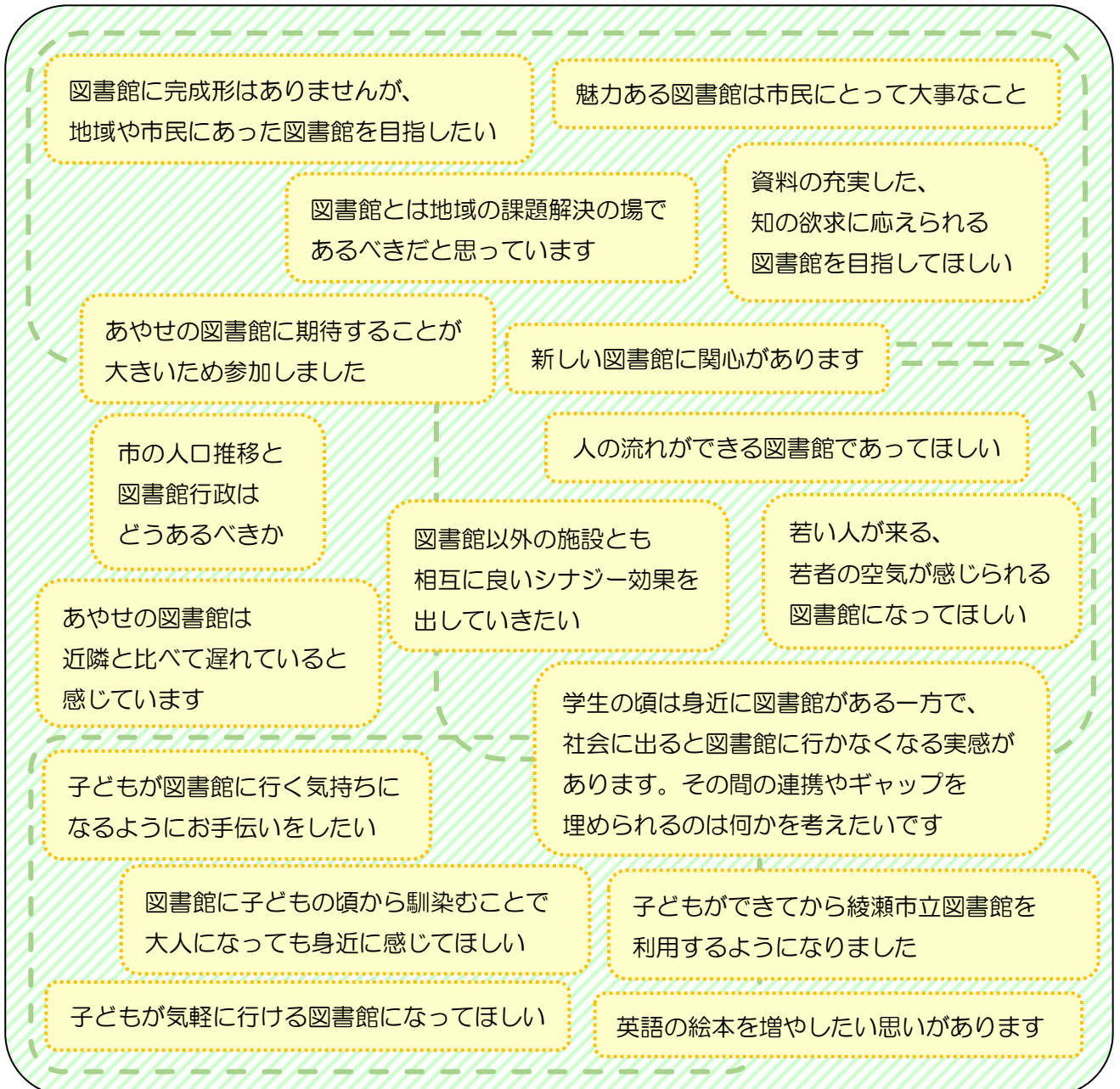
綾瀬市における図書館の今後を市民と一緒に考え、市民参加の図書館づくりを目指すため、市民ニーズを集め、意見を伺う場として、令和4年1月に設置しました。

年齢やライフステージ、地域性によって、望ましい在り方が異なる図書館について、約1年間、計5回にわたって、綾瀬市に望ましいこれからの図書館像を検討しました。

(2) 組織

公募により集まった計17名の有志の市民と図書館関係者で構成されています。なお、募集方法は、多様な意見を聴くため、面接等審査は行わない公募としました。

会の最初には、参加動機や自分にとっての図書館に対する想いを発表いただいたところ、様々なものが見えてきました。



2 開催状況

開催日	主な内容
令和4年 3月19日(土)	第1回あやせの図書館を考える会 ○自己紹介 ○公共図書館の事例紹介 ○意見交換と次回以降取り上げたいテーマについて ○会長・副会長の決定
令和4年 5月21日(土)	第2回あやせの図書館を考える会 ○綾瀬市立図書館の現状について ○綾瀬市立図書館利用者アンケート結果について ○市民ニーズに関する検討について
令和4年 8月20日(土) 書面開催	第3回あやせの図書館を考える会 ○公立図書館の自治体間比較と綾瀬市の図書館サービスについて ○ライフステージ別のニーズの検討 ○利用者の平等利用の確保方策の検討
令和4年11月13日(日)	第4回あやせの図書館を考える会 ○綾瀬市の図書館行政について ○目指す図書館像の検討について
令和5年 2月25日(土)	第5回あやせの図書館を考える会 ○「これからの綾瀬市立図書館の在り方について(指針)」の改定についてと改定案への議論 ○あやせの図書館を考える会の総括

第1回 あやせの図書館を考える会

1 当日の進行

最初に市長からあいさつをいただき、ハード整備の前にしっかりとあやせの図書館像をつくるための第一歩の会となることや、図書館への期待をお話いただきました。

また、第1回は、話しやすい雰囲気づくりのため、皆様に図書館への想いなどをお話いただき、公共図書館の事例紹介や意見交換を行いました。

2 議論内容と実施状況

当日は、13名の出席があり、意見交換からは次のような図書館像がみえました。

- ・子どもから若者、成人、高齢者まで誰もが利用しやすい図書館
- ・多世代の方が居心地良く滞在できる空間としての図書館
- ・レファレンスや相互貸借など各種図書館サービスの認知度及び利用率の向上

第2回 あやせの図書館を考える会

1 当日の進行

第2回は、綾瀬市立図書館の利用状況や各種図書館サービス、利用者アンケート結果等の現状を説明するとともに、近隣同規模自治体との比較等を交えたうえで、市民ニーズに関する検討をグループワークで行いました。

2 議論内容と実施状況

15名の出席があり、市民ニーズを踏まえたあやせの図書館の在り方として、次のような意見をいただきました。

- 既存の機能やコンテンツの活用及び普及による図書館の価値の向上を図る
(現在の図書館サービスの良さ・強みを活かした図書館)
- 時間の有効活用が可能な図書館
(市民の生活導線上への返却場所の設置、隙間時間の活用ができる図書館)
- 誰もが利用したくなり、本を選ぶことを楽しめる図書館
(明るい雰囲気と蔵書の開架を大切に市民の活用を広げる図書館)
- 綾瀬の文化を育てる図書館
(安定した図書館運営と司書による図書館サービスの提供)

グループワークの様子



第3回 あやせの図書館を考える会

1 当日の進行

第3回は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、書面開催となりました。

ライフステージ別のニーズと、利用者の平等利用の確保方策の検討を行っていただくため、公立図書館の自治体間比較や綾瀬市の図書館サービスに関する資料を配付し、意見をいただきました。

2 意見内容

多様な意見をいただきました。その内容を項目別にまとめたものが次のとおりです。

〈ライフステージ別のニーズ〉

ライフステージ	内容
未就学児	利用しやすい環境の創出 / 本に触れる機会の提供
小学生	図書館を知る機会の創出 / 図書館活用の提案・読書案内 利用しやすい環境の創出 / 事業の開催
中・高生	図書館を知る機会の創出 興味関心・読書段階にあった資料の収集・提供 利用しやすい環境の創出 / 活用の提案 読書習慣の定着化
成人	わかりやすい利用案内・周知 / 充実した資料の収集・提供 利用しやすい環境の創出 / オンラインサービス等の拡充 利用者間の交流 / 啓発
子育て世代*	利用案内・周知 子育て世代にあった資料の収集・提供、事業の開催 情報提供・共有の場の創出 / 親子での利用促進 電子図書館の利用案内 / 利用しやすい環境の創出
高齢者	世代にあった資料の収集・提供、活動の場の創出 利用しやすい環境の創出 必要な知識を得られる機会の提供 / 利用者間の交流
その他	広報・PR / 利用しやすい環境の創出 大学生・第二新卒の活用支援 など

* 子育て世代は、出産を予定してから、子どもが小学校を卒業するまでで検討いただきました。

〈利用者の平等利用の確保方策〉

利用者	内容
障がい者の方に向けたサービスや機能	読書バリアフリー法に基づいたサービスの提供 資料の充実 / 利用しやすい環境の創出 オンラインレファレンスサービス / 司書の配置 事業提案 / 啓発・市民協力 必要とされるサービスの調査
外国につながるのある方に向けたサービスや機能	充実した資料の収集・提供 わかりやすい利用案内や周知 利用しやすい環境の創出 / 事業提案 必要とされるサービスの調査 専門の司書の養成・配置
その他	必要な人材の確保・活用 / 蔵書構成の見直し 貧困者やジェンダーへの視点



第4回 あやせの図書館を考える会

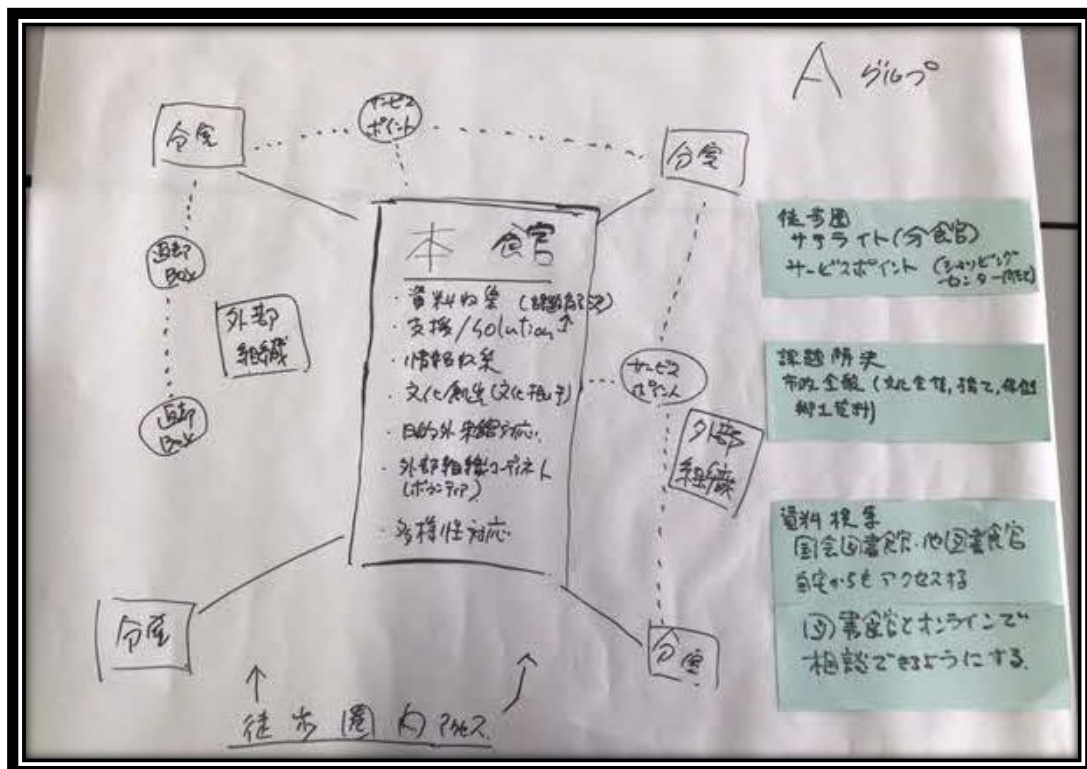
1 当日の進行

第4回は、これまでの振り返りを行うとともに、市の図書館行政に関する説明を行い、目指す図書館像について、グループワークを行いました。

2 議論内容と実施状況

15名の出席があり、各班から次のとおり、目指す図書館像の発表がありました。

◆Aグループ



機能を中心に、目指す図書館像を議論しました。

◆誰でもアクセスできて、日常的に利用できる

…誰もが徒歩圏内でアクセスができるように、地域の各公共施設に分室を増設し、分室のサービスを充実させる。また、日常的に気軽に利用できるように、商業施設等に貸出・返却可能場所を増やす。

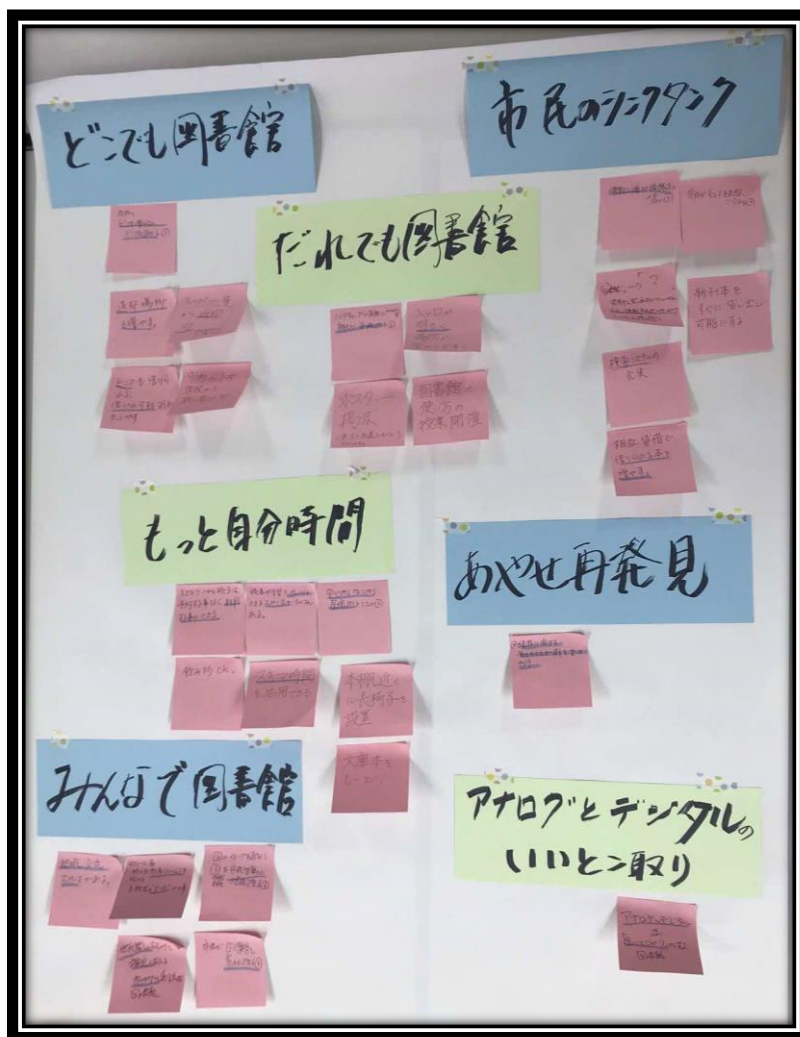
◆地域の課題解決機能の役割を担う

…本館を中心に各公共施設に分室から、地域の活動団体の支援・連携が可能となるような情報発信や図書資料等を提供し、課題解決機能の役割を担う。

◆情報へのアクセス手段を提供する

…知りたいことに応じてくれる機能を充実させる。さらに、自宅からオンラインで司書に相談ができる課題解決支援や、国立国会図書館を始めとする他の図書館や海外の機関等の情報提供も可能となる体制を将来的に整える。

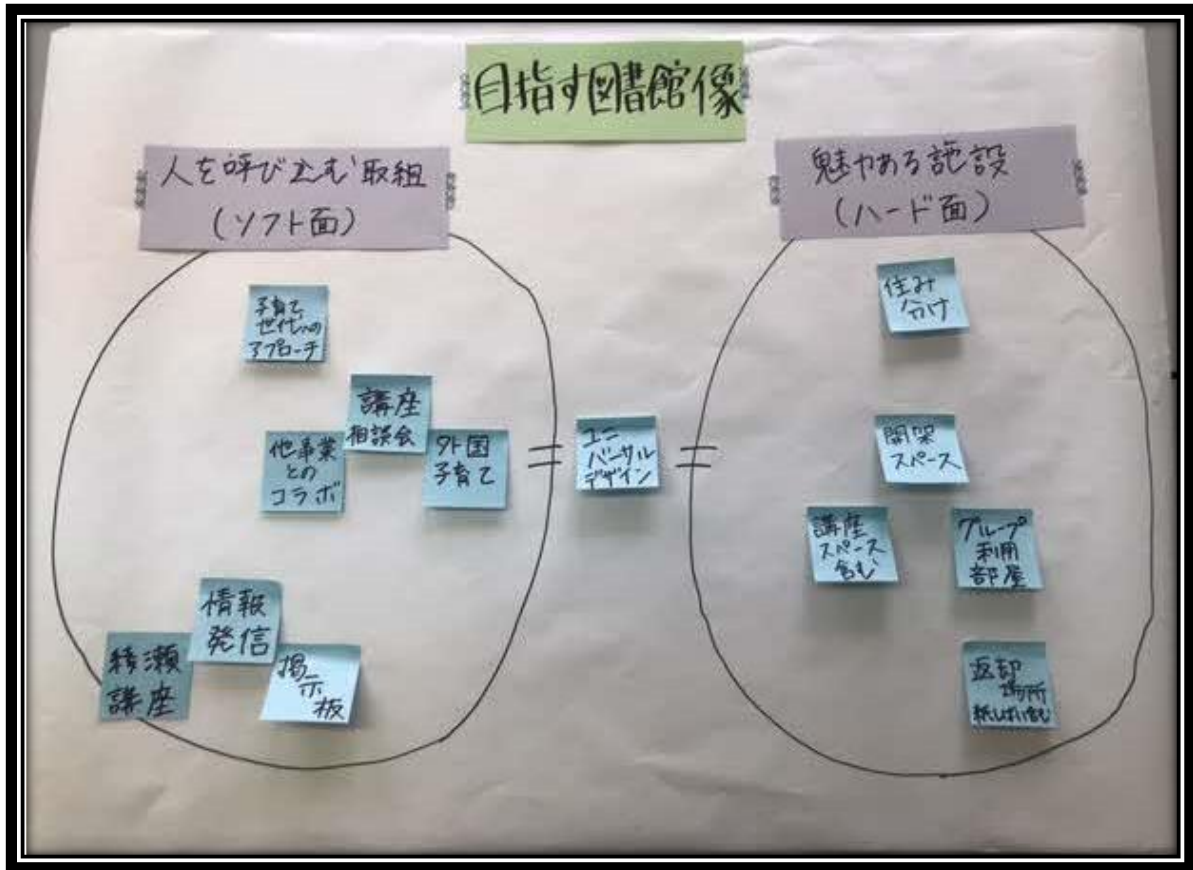
◆Bグループ



7つの目指す図書館像を考えました。

◆どこでも図書館	スーパーや公民館など、どこでも貸出・返却ができる
◆だれでも図書館	障がいがある人も誰もが気軽に利用できる
◆市民のシンクタンク	検索や情報収集の方法・ヒントを知れる 図書以外の資料も利用できる また、そうしたことがわかるように、図書館以外のもっと良い名称があるのではという意見があった
◆もっと自分時間	飲み物OKで、ゆっくり安心できる居場所としての図書館 そのほか、隙間時間の活用、長椅子の設置や文庫本の増等
◆あやせ再発見	市民に綾瀬を知ってもらえる本や冊子の刊行・活用など
◆みんなで図書館	市民参加型の図書館をつくる 市民活動・地域・世代間交流の場となる
◆アナログとデジタルのいいところ取り	小説の中の言葉を調べたり、原作小説と視聴覚資料を一緒に見てもらうことでより楽しんでもらう

◆Cグループ



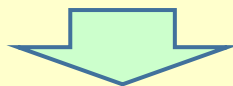
◆ハード面の課題が多い ⇒ ハード面から「魅力ある施設」にする
 例えば、開架スペースの増、講座やグループ利用室、
 生活導線上の返却場所の充実など
 最終的には、利用形態にあった住み分けができるが良い。

(カフェフロア、子ども向けの少し騒いでも良いフロア、
 静かに読書や調査ができるフロア等)

◆ソフト面として「人を呼び込む取組み」が必要

⇒ 色々な層へのフックを用意し、継続的な利用に繋げる

例えば、あまり図書館利用がない層への講座・相談会・体験会の開催・交流、
 図書館の魅力の情報発信、図書館以外の情報も発信できる掲示板など



そして、この2つをつなげるために、

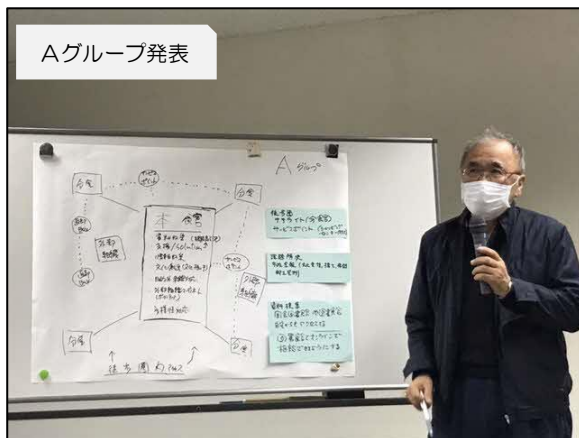
誰もが利用しやすい来館しやすい「ユニバーサルデザイン」が必要

会の様子

Aグループ



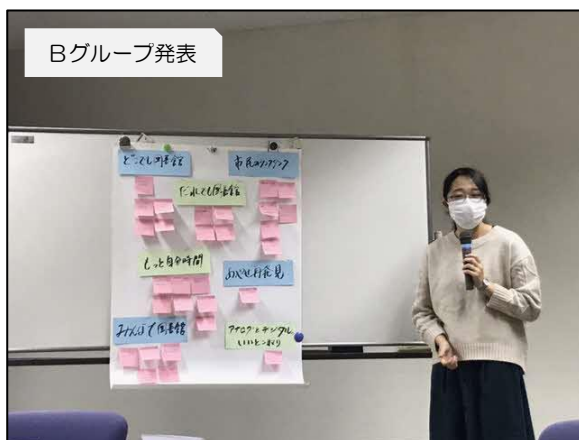
Aグループ発表



Bグループ



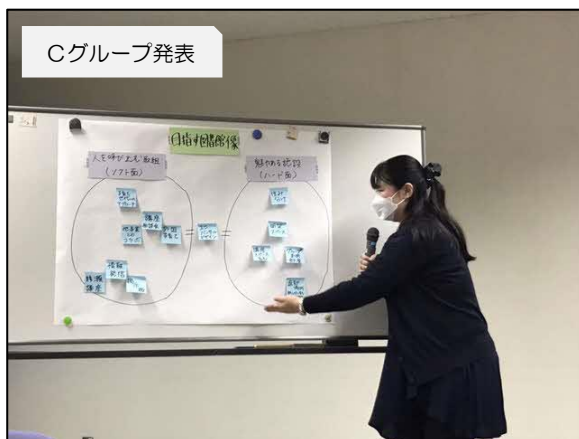
Bグループ発表



Cグループ



Cグループ発表



全体の様子

第5回 あやせの図書館を考える会

1 当日の進行

会での議論等を参考に作成した「これからの綾瀬市立図書館の在り方について(指針)」改定案を示し、意見をいただきました。

2 議論内容と実施状況

14名の出席があり、「これからの綾瀬市立図書館の在り方について(指針)」改定案について、グループワークで検討いただいた内容を発表いただきました。

◆Aグループ

おはなし会室専用室の設置や子ども向け学習室の充実、駐車場の拡大が必要です。一方で、飲食スペースの設置については、メリットとデメリットがあり、意見が分かれました。運用面では、現在、貸出冊数の制限がありませんが、雑誌については貸出制限が必要ではないかという意見がありました。

建替えや予算が決まっていないなかで議論することに難しさがありましたが、ここでの議論を活かしていただくことを期待しています。

◆Cグループ

〈誰でもどこからでも利用できる図書館〉

なかなか図書館に行けない方、高齢化で出かけるのが大変な方、それでも本を読みたい方のニーズに応えるにはどうしたらよいかと考えました。

また、小さな子どものうちから、図書館に親しんでもらいたく、市内の隅々までいろいろなところで、おはなし会の催しや小さな子どもが集まれる場所があると、参加がしやすくなります。

例えば、 ◆ICTの活用

⇒ 慣れない方のために、最初の一步を手厚く支援することで環境を整えられるのでは

◆図書館以外の関連機関との連携

⇒ 自治会などの地元と連携できると良い

本を読みたい人たちが、どこからでも利用ができる図書館を期待します。

◆Bグループ

それぞれの意見の角度が異なったため、それぞれがポイントだと考えることをまとめました。

○図書館の在り方

図書館には、ある程度権限や自由度の確保が必要であることから、市直営での運営を考える必要があります。

○「親切すぎる」レファレンスサービス・レフェラルサービス

綾瀬市の限られた環境の中では、できることが限られています。そのなかで、レファレンスサービス及びレフェラルサービスにより、「親切すぎる」と言われるような図書館を目指してほしいです。そのために、綾瀬市立図書館の強みや売りになるようにPRし、市民に活用してもらえよう場を設けていく必要があります。

また、本だけでなく、新聞や雑誌、電子資料など様々な資料があることを知ってもらえよう取組みが必要です。

○学校連携事業

教諭・学校司書・図書館職員を結びつける運営整備が必要です。例えば、郷土資料のデータベース整備と学校での活用事例の作成・提供があると良いです。

○ライフステージに応じた支援

生まれてから成長していくライフステージの変化に応じて、求められるものが変化します。図書館がそうした変化に寄り添うことで、ある時点で図書館や本から離れてしまうといったことを引き留められるかもしれません。

* レファレンスサービス

利用者が調査研究に必要な資料や情報を求めた際に、図書館員が求められている資料や情報を検索・提供し、援助する図書館サービス。

* レフェラルサービス

利用者が調査研究に必要な資料や情報を求めた際に、図書館員が適切な専門家や専門機関に照会して情報を入手し、提供するサービス。または、そうした専門家や専門機関を利用者に紹介するサービス。



会の様子

Aグループ



Aグループ発表



Bグループ



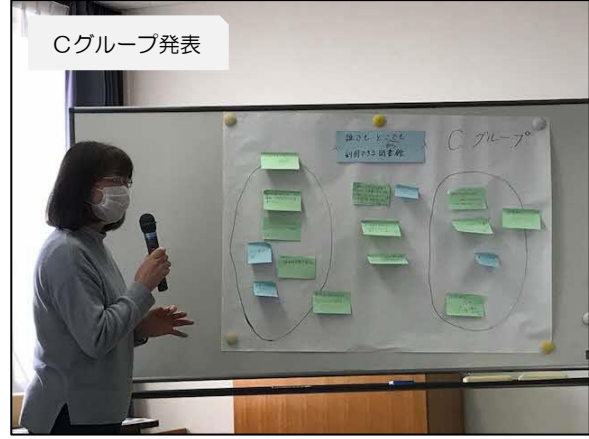
Bグループ発表



Cグループ



Cグループ発表



全体の様子



3 会の総括

全5回の開催を終え、会長・副会長より、会の総括と閉会のあいさつをいただきました。

会 長

これまで計5回にわたって、様々な視点から議論を行いました。この会の目的は、図書館が多様化するなか、綾瀬市に望ましい図書館とはどのような図書館なのか、有志の市民自らで検討することで、綾瀬市立図書館の発展につなげることです。すごく良いことだと考えています。

本会での議論が、指針の改定の参考となり、今後のあやせの図書館の発展に寄与していくことを期待しています。

副 会 長

年齢や性別など生活の背景が異なる方が一堂に会して、図書館について話し合うという、なかなかない貴重な経験をさせていただきました。皆様の意見を聴いていると、一言に図書館といっても、関わり方が様々な角度からあることを学ばせていただきました。それぞれのライフステージにおかれた環境によって、図書館に求めるものが変わってくるのだと感じます。本会は、その一端をみせていただくことができたと思っています。

求められることすべてに答えていくことは難しいと思いますが、本会で話し合ったことが少しでも実を結んで、これからのあやせの図書館が、市民に寄り添って愛されていく図書館になっていくことを願っております。



会員全17名のうち13名